

# ひまわり

## 第11号

発行：隠岐地区保護司会  
事務局：隠岐の島町城北町163  
TEL：08512-3-1701



### 「隠岐諸島における再犯防止の

### 推進にご理解とご協力を」

松江保護観察所長

穂坂 英樹

隠岐諸島各地にお住いの皆様におかれましては、平素、法務省が主催する「社会を明るくする運動」の趣旨にご理解ご協力を賜っており、心からお礼申し上げます。また、この地域で犯罪や非行のない明るい社会づくりに向けて、更生保護活動にご尽力を賜っておられる保護司や更生保護女性会の方々に対しまして、心から感謝申し上げます。

さて、最近の犯罪動向におきましては、全国あるいは島根県



における刑法犯の認知件数が、年々減少にある一方、刑法犯により検挙された者のうち、再犯者の割合がこの二十年以上にわたり上昇し、過半数に近づいている状況となっております。罪を重ねる人たちの中には、貧困、障害、厳しい生活環境等で様々な生きづらさがあり、自力での立ち直りに多くの困難を抱えていることが分かってきました。

このような生きづらさを抱える人々に対して、刑事司法機関のみならず地域社会で切れ目のない、息の長い支援をしていくことが国全体の重要な課題とされ、平成二十四年の「再犯防止に向けた総合対策」の策定を始め、平成二十八年十二月に、再犯の防止等に関する施策に関する基本理念と、国及び地方公共団体の責務を明示するとともに、

再犯の防止等に関する施策の基本事項を定めた、いわゆる「再犯防止推進策」を策定。翌二十九年十二月には、「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、国・地方公共団体・民間の緊密な連携協力を確保して、再犯防止施策を総合的に推進すること等の五つの基本方針と、罪を犯した人々への就労・住居の確保等の七つの重点課題・施策を盛り込んだ、国の「再犯防止推進計画」が策定され、保護観察所に於いても鋭意取り組んでいるところであります。

このような状況下、令和二年度には島根県において再犯防止推進計画が策定されることとなります。隠岐地方の各町村におかれましては、人口減少対策、産業振興対策等の地方創生に向けて、誰もが認め合い、生きがいを持って活躍でき、人々が輝き、安心して暮らせることへの支えとなります。

地域の保護司や更生保護女性会員の皆様からの声も踏まえ、地域に応じた再犯防止計画を策定いただくよう心よりお願い申し上げます。

第69回

“社会を明るくする運動”

《作文コンテスト》

島根県更生保護女性連盟会長賞

「明るい社会とは」

北小学校六年生

稲葉 仁子



毎朝、ニュースを見ていると、殺人・事件・事故・あおり運転などの悲しいニュースが報道されている。ニュースで報道されていないものも合わせると、一日でいったい何件の事件が起きているのだろうか考える。かわいそうで、悲しくて、朝から嫌な気持ちになる。

私は、特に子どもに関する事件がニュースで報道されると心の奥がずきずきと痛む。小さな子どもたちが、交通事故にあたり、虐待されていたり、命がいつしゅんにして消えてしまっている。事故や事件は、いつ起きてしまうか、いつ巻き込まれるか分からない。分からないからこそ、恐ろしさを改めて感じてしまいます。

私は、犯罪はなぜ起こってしまうのか疑問に思う。特に、虐待については、考えても分からない。なぜ、どうして、自分の子どもがかわいくないのかと思う。

家でお母さんと虐待について話したことがある。お母さんはこんなことを言っていた。「子育てでいろいろなことを考えたりなやんだりした。子どもが大きくなると手が離れても、なやむことは多いよ。きつと正解はないだろうし。ただとお母さんには助けてくれる人がたくさんいた。

おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの人、地域の人たち。相談もできたし、話も聞いてもらえた。一人じゃないんだ

など安心したし、大丈夫、大丈夫と思えた。だけど、みんながそうとは限らないよ。」私には、少しずるいところがある。今は私の意見を言わなくてもいいのかな。あの人には逆らわないほうがいいかな。こはみんなに合わせておこう。本当のことは言えない、言わない。自分で自分が嫌になることもある。

そんな私のことを分かってくれる人がいる。私が笑っていると一緒に笑ってくれる友達だ。嫌なことがあった時は、元気になるようにしてくれる。口に出さなくてもわかり合えている。そんな気がする。家族もそうだ。お父さん、お母さん、お姉ちゃん。家族全員がそうう時間はあまり多くない。だけど、おたがい知ろうと分かろうとされていると思う。私の話を「うん、うん。」そんなことがあったんだ。「と聞いてくれる。アドバイスをしてくれることもあれば、ただ黙って聞いてくれることもある。」ただいま。「の一言で、今日、何かあつ

たの。「とお母さんに聞かれることもある。悲しいこと、つらいこと、分かってきている。気づいてくれている。そう思うと、心が軽くなり、不安だった気持ちが消え、不思議なくらい安心する。

お母さんしかない家庭。お父さんしかない家庭。両方いても帰りが遅い家庭。いろいろな家庭があるだろう

「だれかのために」

都万小学校五年生

田下 葵衣



ニュースで、罪を犯した人のことを目にします。何も関係がないのに、きずつけられ命をおとされた人のことを考えると、言葉にできない感情がわいてきます。そして、その家族の方は、どんな思いになるのでしょうか。でも、私の生きている世界はそんな悲しいことばかりではありません。

私の母が働いている介護施設には、もうすぐで百歳になるおじいさんがいました。そのおじいさんは、何でも教えてくれて、いつでもみんなの心を和やかにしてくれます。でも、ある日、長くは生きられないことが分かりました。その日から母は、おじいさんが穏やかな死を迎えることができるよう、どうすればよいか、おじいさんの心も体も楽な方法はないか、おじいさんの望んでいることは何かなど、色々勉強したりおじいさんや家族の方と話したりしました。私にも話してくれ、相談してくれることもありました。

けれど、私の家族や友達が私にしてくれたことを、私の周りの人にしてほしいと思う。悲しみや辛さに寄りそい、話をすることで救われることは多いはず。人と人がわかり合うことで犯罪が減り、明るい社会になるはず。私はそんな社会を目指していきたい。

おじいさんは、「家が好き、家族が好き」で、家族もおじいさんのことを大切にしている、おじいさんが望んだように最期をむかえようということでした。日に日に弱っていくおじいさんでしたが、私にも色々楽しい話をしてくれたので、何かできる事はないかなと思ひ、おじいさんの中でブームになっていたチ「ちゃん」をフェルトで作ってプレゼントしました。「おじいちゃん、すごく喜んで、すぐに部屋に飾ってたよ。」と、仕事から帰った母が教えてくれました。私は、何だかとてもうれしい気持ちになりました。

おじいさんは、最後には、口から水分を取ることも自分からきよひし、病院で点滴などの命をのばすための治りよりも一切しないと言いました。私は、「苦しめないのかな」「病院に行つて、少しでも長く生きてほしい」と心の中で思いました。でも、これは、おじいさん本人が望んでいる事。私も、最期まで見送ろうと思ひました。

おじいさんが亡くなったとき、家族の方がすぐに私のプレゼントしたチ「ちゃん」を探して、かんおけの近くに置き、最後にかんおけにも入れてくださったそうです。私は、おじいさんとの出会いから命の大きさは同じで、とても温かいものだと分かりまし

た。それは、おたがいのことを思つて、心が通じ合つていたからだと思ひます。もしかすると、罪を犯してしまふ人は、温かい気持ちをもちらうことが少なかったのかも知れません。みんなが、相手のことを考へて、思いやりの輪を広げていけば、きつと温かい気持ちいつばいの世の中になると思ひます。

私は、だれかのために思ふ気持ちを、これからも大事にしていきたいと思ひます。

「おまえ、そんなこともできんのか。あほんだら。」

僕の祖父はとても厳しく、箸の上げ下ろし一つでもうるさく注意する、少し怖い存在でした。聞き慣れない関西弁で言われたこともあつたかもしれませんが、まだ幼かつた僕はその言葉に萎縮し、落ち込んだことがたくさんありました。

祖父は高校時代、春夏連続で甲子園に出場した経験があり、過去の栄光を何度も聞かせてくれました。また、消防士として今にも崩れそうな建物の炎や煙の中に飛び込んで、多くの人を助けてきました。また、救急

# 「命の尊さ」

## 海士中学校三年生 青山 光輝

隊員として、急病人やけが人を病院に搬送しながら、応急処置を施す仕事をさせていただきました。阪神淡路大震災では、何日も家に帰らず、救命に努めたと聞いています。

そんなとても強い祖父ですが、僕が幼い頃に歌つた「花は咲く」という歌がとても好きでした。歌がうまいとほめてくれ、何度も聞かせてほしいとねだられたときは、とても嬉しくて、



とても嬉しくて、

今でもはつきりと覚えていて、

た、僕に何かあつたときは一緒に喜んでくれたり、対策を教えてくれる祖父でした。

そんな祖父が先日天国へと旅立つていきました。ついにこの昔話をしたばかりだった僕は、あのときもつと話しておけばよかったと、とても後悔しました。

り、涙がこぼれました。そのとき初めて僕は命の尊さを感じました。なんの前触れもなく旅立つて行つた祖父の姿から、人間はいつ死んでしまうかわからないと思ひました。

それから数日後に職場体験学習があり、僕は地域の高齢者の福祉施設で働かせていただきました。そこで死長さんに高齢者との接し方について教えていただきました。僕が一番心に残つたのは、「人は自尊心をなくすと寿命が縮む」という言葉でした。

高齢者の方はよく

「私なんかが・・・や」「私なんかいなくなつたつていい」と言われます。マイナ

ス思考になり、食事に手をつけなくなつてしまつと健康状態にも影響します。そのために介護福祉士は介護をするだけでなく、高齢者の自尊心を守つていくことも大事な仕事なのだと言われました。介護をするだ

けでも大変なのに、心の面も考えるということでも大変だけどやりがいのある仕事だと思ひました。

このような体験をして僕は命の大切さ、そして日々を過ごすことのありがたみを感じました。祖父の言葉の中に優しさや愛情が込められていたことを今さらながら気づくことができました。

僕は将来、医療関係の道に進みたいと考えています。僕の手で少しでも多くの人を救いたいと思ひます。そのためにも勉強をしっかりと、進学できるように頑張ります。

「神戸じいちゃん。僕、神戸じいちゃんみたいに人を救う仕事をした。だから勉強を頑張つていけるし、これからも頑張るよ。ときどきネガティブになったりすると思ひけど、神戸じいちゃんの言葉を思い出しながら背中を追うから、空で見守つてね。」

令和元年度の「社会を明るくする運動」作文コンクールには、島内の各小・中学校から多くの応募作品が集まりましたが、その中から三人の作文を掲載しました。  
小学校の部の稲葉さんと田下さんの作文は「島根県更生保護女性連盟会長賞」に選出されました。

# 「地域で守る！」

隠岐の島警察署長

吉川浩則



「遊びながら帰ると事故するぞ。」「こらー！その柿をとっちゃいけない。」「こいで遊んじゃ危ない。」など、少年期に地域のおじさんやおばさんによく叱られました。今考えると、うちの子もよその子も隔たりなく、地域の子供みんなを正しく躰け守ってくださったのは、家族は勿論ですが地域の皆さんであつたと改めて思うと同時に、当時のおじさんおばさんに感謝申し上げたいと思います。

何時の時代も、子供が被害に遭う事件事故を見聞きする度に心が痛みます。子供を取り巻く社会環境は年々悪化しており、特に、インターネット利用の悪質犯罪が全国で多発している今、こゝ隠岐の島町でも、何時その危険が迫ってくるか分からない状況です。

そんな折、令和元年島根県防犯連合会の防犯作文コンクールで優秀賞を受賞した町内の中学生の作文を拝見する機会がありました。その作文

は、インターネットやSNSの普及による便利さと恐ろしさの両面を直視し、利用する側が使い方や情報を正しく判断して、トラブルに遭わないようにすることが重要である旨の内容でした。ネット犯罪から自らを守るために、中学生が自ら自問自答してその答えを導き出すことに感銘するとともに、迫りくる危険な犯罪から子供たちを守らなくてはいけないと改めて強く感じました。

隠岐の島町は、県下的にも自主防衛意識が高い地域と感じております。それぞれの立場で活躍されている皆さんと、手と手を携えての取り組みが実を結び、地域の宝である子

# 「藍綬褒章拝受に際して」

保護司

土井幸子

この度「令和元年度 秋の褒章」の拝受にあたり、身に余る光栄であると共に、あらゆる皆様からのご支援とご厚情の賜物であると、深く感謝しております。

思い出ごとく、平成七年、ちょうど五十代にさしかかった頃、夫と商店を経営していた当時、どうしても店に縛られることの多い私は、「店だけの人生では成長がない」と感じていた矢先、ボランティアではあるが、非常勤の国家公務員でもある保護司になる依頼に、その立場の重大さも顧みずお引き受けいたしました。

松江での新任研修から始まり、年4回の隠岐地区での研修会は欠かさ

供たちが健やかに成長でき、また、犯罪のない安全・安心な隠岐の島町が実現するよう頑張つてまいりますので、今後とも、ご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

ず参加し、真剣に取り組んできたように思います。しかしながら、保護観察対象者を担当に持つようになると、自分の甘さや、いい加減さでは済まされない苦労や問題を抱えることとなりますが、こうしたことを先輩保護司の方は、本業をこなしながらひたすら秘匿に努め、平然とこなして居られる姿に驚きに似た尊敬の念を抱いたのを、今でもはっきりと覚えています。

対象者を受け持った際、困った時には担当の松江保護観察所主任官に相談やアドバイスをや支持を仰ぐことになりませんが、やはり専門の方々、その通りに行動してみると、前進したり好転したりしたものでした。

一般の方から認知度の薄い保護司としての活動は、水面下で一人一人の人間と向き合い、立ち直りを願い、工夫し、努力し、常に苦労が付きまっています。そして、保護観察対象者との対応は全て秘密裏に対処しなければならず、誰に話すことも無いため、世

間から保護司の存在すら知らなかったという現実も当然のことなのかも知れません。

「こつて前へ進むことにより、人生は熟成する。と偉人の言葉。保護司の仕事がその通りだと思えます。

これまで四半世紀。様々な経験を積み、こつして大きな賞をいただき、光を浴びさせていただきました。今後の隠岐での保護司の活動全般に理解が深まり、光が注がれないものかと願うばかりです。

左写真

土井さんは家族の都合により東京に上京せず、役場にて伝達式が執り行われました。



# 「更生保護制度施行七十周年記念全国大会」

## 保護司 名越邦博

### に参加しました

令和元年十月七日(月)に開催された標記の大会に参加させていただきました。会場は『東京国際フォーラム』(千代田区丸の内)ですが、JR東京駅や有楽町駅、地下鉄有楽町線の有楽町駅などが至近で大変便利な場所にあり、大ホールは六千人くらい収容出来る大きな施設です。

当日正午から受付が始まりました。全国から招待者・関係者併せて五千人が集う大会なので



入場時は大混雑。更に、式典には天皇・皇后両陛下ご臨席のために、勿論入場を許可された者しか入れず、入場の際にセキュリティは航空機搭乗時よりも大変に厳しくチェックされました。

午後一時に式典が始まりますが、両陛下ご臨席に際しての諸注意の後、安倍晋三総理・小池百合子東京都知事・大島衆議院、山東参議院各院議長や法務大臣・最高裁判所長官・日本弁護士連盟会長ほか蒼々たる顔ぶれがお揃いになりました。そして、会場全員が起立拍手の中で両陛下がお席に着かれて開式となりましたが、普段はテレビなどを通してしかお顔を拝見できないような方々と同じ会場に居ることが何か不思議でも有り、誇らしくもありました。

式典終了後には二十分の休憩の後、更生保護事業関係代表者によるシンポジウムが開かれました。各地域で現在活動する保護司や更生保護女性会の方などが活動報告などをして意見交換や協議をします。

今回参加する機会を得たことや、その中で学び感じたことを今後の活動に結びつけたいと思います。

## 顕彰式典における保護司の各種表彰

更生保護制度施行70周年記念  
第24回島根県更生保護大会  
(於:大田市)



後列右端—古川静子保護司  
前列左端—名越邦博保護司

法務大臣表彰	古川静子 (隠岐の島町)
〃	名越邦博 (隠岐の島町)
全国保護司連盟理事長表彰	田中一隆 (隠岐の島町)
中国地方更生保護委員会長表彰	早川秀敏 (隠岐の島町)
中国地方保護司連盟会長表彰	渡部信行 (知夫村)
松江保護観察所長表彰	美濃芳樹 (海士町)
島根県保護司会連合会長表彰	山口克秀 (隠岐の島町)

## 社会を明るくする運動

つまずいてもやり直せる社会へ  
「おかえり」に込められた思い  
人はみな 生かされて 生きてゆく

# 青少年の健全育成を願う各種の支援

隠岐地区保護司会では、「罪を犯した人の立ち直り（再犯防止）」や「青少年の健全なる育成」によって『犯罪のない明るい社会の実現』を目指し、様々な活動に対する支援を側面から行っています。



第46回 隠岐中学校弁論大会  
の出場弁士



アドベンチャー教室の様子



全隠岐剣道選手権大会の様子



全隠岐柔道選手権大会の様子





夏休み期間に行われる「夜間パトロール」に警察署及び関係団体の皆さんと共に参加しています。



（保護司の活動）定期の研修や  
企画調整会議の様子



隠岐地区保護司会は別掲の保護司で組織されており、隠岐更生保護サポートセンター（旧隠岐島消防署跡）を活動拠点として、「明るい社会の実現」や「罪を犯した人の立ち直り」のお手伝いをするため、地区定例研修など各種研修会に参加して自己研鑽に努めながら、それぞれが各地区での事案（環境調整や保護観察など）を受け持つて更生保護活動を行っています。

また、警察署や各種団体と連携して、地域での防犯活動や青少年の健全育成につながる各種の大会やイベントに対して、側面から支援を行っています。

（写真右2枚）「社会を明るくする運動」内閣総理大臣メッセージ伝達式の様子



渡部 信行 (知夫村)  
 若葉 節子 (隠岐の島町)  
 吉田 均 (隠岐の島町)  
 山口 克秀 (隠岐の島町)  
 村上 和弘 (隠岐の島町)  
 道坂 博旨 (隠岐の島町)  
 松本 剛幸 (隠岐の島町)  
 古川 静子 (隠岐の島町)  
 早川 秀敏 (隠岐の島町)  
 名越 邦博 (隠岐の島町)  
 土井 幸子 (隠岐の島町)  
 美濃 芳樹 (海士町)  
 田中 一隆 (隠岐の島町)  
 高橋 英康 (西ノ島町)  
 澤田 恭一 (海士町)  
 榊原 信也 (海士町)  
 熊沢 浩隆 (西ノ島町)  
 角脇 直子 (隠岐の島町)  
 小田 泰史 (隠岐の島町)  
 宇野神無子 (隠岐の島町)  
 安藤 精一 (西ノ島町)  
 赤沼 高男 (隠岐の島町)

## 令和元年度の主な活動報告

### 犯罪予防活動の推進

#### ①第69回 " 社会を明るくする運動 "

- i) 県推進委員会 (5月20日 松江市)
- ii) 地区推進委員会 (6月3日 隠岐の島町)
- iii) 内閣総理大臣メッセージ伝達式 (7月3日 ふれあいセンター)
- iv) 行政無線による広報活動 (隠岐の島町、海士町)
- v) 作文コンテストの実施 (夏休みを利用して各小中学校へ依頼)
- vi) 協力事業主の発掘

#### ②各種大会の共催

- i) 全隠岐中学校弁論大会 (9月10日 海士町開発センター)
- ii) 全隠岐柔道選手権大会 (9月29日 西郷武道館)
- iii) 全隠岐剣道選手権大会 (11月24日 西郷中学校体育館)
- iv) アドベンチャー教室 (8月10日～11日 隠岐の島町)

#### ③更生保護相談

保護観察官の定期駐在に併せて開催 (5月30日, 11月13日, 3月4日)

### 処遇支援活動の推進

#### ①社会資源開拓活動の推進

- i) 警察署および関係機関との協議会 (夜間パトロール 8月3日, 8月11日)
- ii) 小中学校担当教諭との連携強化と「れんたいおき」との打ち合わせ

#### ②保護司候補者検討会議の設置

### 各種研修の実施など

#### ①保護観察所が行う研修への参加

- i) 地域別定例研修 (5月30日, 11月13日, 3月4日)
- ii) 特別研修 12月13日 (道坂・古川保護司受講)

#### ②視察および研修

- i) 視察および研修 11月20日～21日
- ii) 他地区保護司会との交流研修

※いずれも顕彰式典参加に併せて実施

### 保護司会連合会との連携

#### ①更生保護制度施行70周年記念全国大会」への出席

(10月7日 於：東京国際フォーラム 名越保護司出席)

#### ②保護司代表者会議への参加 5月21日, 9月4日 (会長・事務局出席)

※保護司会連合会常務理事会、観察協会役員会を併修

#### ③東部地区保護司会代表者会議 10月25日 (於：出雲市 事務局長出席)

### 協力組織との連携

#### ①更生保護女性会との協議会開催 (7月3日 総会及び研修会に出席)

#### ② “愛の図書運動” (更生保護女性会主催事業) への協力